

講演会

テーマ：「インドの経済発展と自動車産業の将来」

2016年にはインドの自動車生産台数は449万台に達し、中国・アメリカ・日本・ドイツに次ぐ世界第5位になった。また、自動車の販売台数は、2000年代になって平均10%の成長率で増加し、2016年には300万台を突破してさらに成長を続けている。人口に比べて自動車保有率が低いインドでは、今後も国内販売台数の伸びが期待できる。インドの自動車国内市場では、スズキ自動車が40%を超える高いシェア（2016年は乗用車市場で47%）を占めるが他の日本メーカーは苦戦し、一方でTATAやMahindraのようなインド企業も健闘している。欧米の有力自動車メーカーや韓国の現代自動車も参戦し、熾烈な競争が予想されている。また、PM2.5等による大気汚染が深刻化する中で、インド政府は電気自動車の普及に強い意欲を示している。世界屈指の巨大市場となったインドの今後の自動車産業の行方を探る。

講師：神戸大学経済経営研究所 佐藤隆広 教授

日時：5月16日（水）13時30分～15時30分

会場：早稲田大学19号館3階309号室

共催：早稲田大学 自動車・部品産業研究所

WIAPS 「経済発展の政治経済学」部会

講師紹介：佐藤隆広教授は、現在日本を代表するインド経済の研究者である。佐藤教授の研究領域はインドのマクロ経済から貧困問題、製造業、国際貿易、直接投資、労働市場、金融市場など多岐にわたる。最近では、インドの自動車産業・部品産業の研究も行っており、インドで数十回にわたる自動車企業・部品企業への聞き取り調査を行っている。